

ぐんまハイスクール・ネットワーク構想

別添資料4

<ネットワーク構成校>

長野原高校・孺恋高校・渋川高校・尾瀬高校・吾妻中央高校

1. 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

- 「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施により、生徒の進路希望に応じた多様な教科・科目の開設や指導の充実を図る。
- 教育課程の共通化による単位認定までを含めた、通年による遠隔授業を実施する。
- 探究的な学び等における、教育課程の共通化を伴わない「合同授業型」の遠隔授業の可能性を探る。
- 遠隔授業のメリット・デメリット等を検証し、遠隔授業の効果的な実施方法を探る。

2. (質の高い教育の実現に向けた) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

- 学校間の連携を円滑に行うため、実践推進委員会等を組織し、事業計画の検討や取組の評価を行う。
- 管理職のリーダーシップの下、職員研修により教職員の指導力を高めるとともに、校内組織の見直しを図る。
- 全国に先駆けて整備した1人1台パソコンを効果的に活用し、学びの質の向上を図る。
- デジタルツールを生かすことで、探究的な学びや体験的な学びの充実など、「群馬ならではの学び」(群馬の環境を生かし、感性を磨きながら、デジタルで社会とつながることができる学び)を推進する。

3. コンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化に関する取組

- 子どもや地域のニーズを捉えた特色ある学校づくりを推進するとともに、地域社会に根ざした学校間の連携・協働ネットワークを構築する。
- 構築したネットワークを生かして、学校外の人的資源や地域ならではの伝統や文化、ものづくりの技術や観光資源等を教育資源として活用しながら、地域の課題解決や魅力の向上等をテーマとした学習を推進する。
- 地域や学校の特色を生かしながら、県外からも注目されるような魅力の向上と発信に取り組み、学校を含めた地域全体の活性化と魅力化を図る。

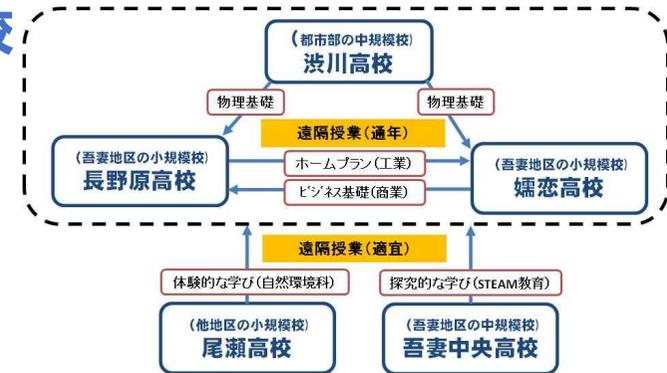
4. 成果及び課題 (令和4年度)

<成果>

- ①送受信及び県教委担当者が連携した遠隔授業実施体制の構築
- ②遠隔授業システムの運用方法と、適切な受信体制に関する知見の蓄積
- ③地域と協働した取組と教育課程の接続に関する知見の蓄積
→本格実施をとおり、遠隔授業システムを活用した授業作りや評価の実施等について知見を得ることができた。

<課題>

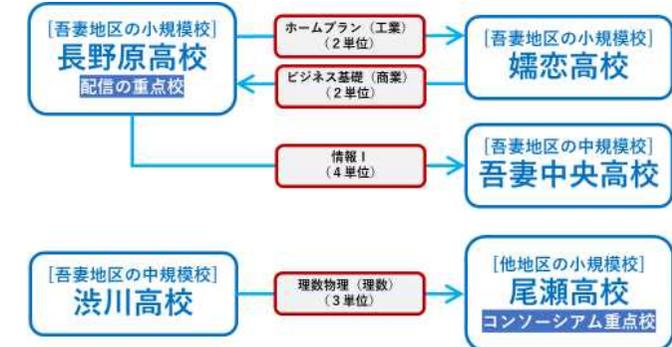
- ①配信を担当する中規模校にかかる負担の大きさと継続的な予算確保
- ②遠隔授業の実施に関する適切なニーズ把握と効率的な人員配置
- ③学校とコンソーシアム双方におけるより主体的な関わり方の検証
→遠隔による授業作りの手応えを得ることができた一方、継続的な実施に関する予算や人員面に関する課題も明らかになった。



※ 令和5年度は尾瀬高校、吾妻中央高校への理科の配信を予定

5. 令和5年度に向けて

<実施体制(令和5年度)>



<重点的な取組>

- 受信側体制の在り方の検証
長野原高校からのホームプランA(工業)の授業では、初めて受信側に当該教科の教員の配置がない状況での遠隔授業を実施する。
- 小規模校から中規模校への配信
小規模校である長野原高校から、中規模校である吾妻中央高校へ情報Iの配信を実施し、遠隔授業のニーズに関し、新たな可能性を探る。
- コンソーシアム運営の積極的な支援
学校(生徒)と地域がより主体的に関わることができる地域連携の形を明らかにしていく。